

## 世界的に見たグリーンボンド等SDGs債の 発行状況と投資の意味合い

江夏 あかね CMA

### 目 次

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. はじめに               | 4. SDGs債のプライシング  |
| 2. 債券におけるESG / SDGsとは | 5. SDGs債の投資の意味合い |
| 3. SDGs債の発行及び投資状況     | 6. 終わりに          |

本稿では、グリーンボンド等のSDGs債の特徴、SDGs債の発行・投資状況及びプライシングについて概観した上で、投資の意味合いについて論考した。そして、SDGs債特有の要素であるインパクトが、SDGs債市場の持続的発展やSDGs債への投資の意味合いを見いだすカギの一つとなり得ることを指摘した。

### 1. はじめに

金融市場では近年、環境・社会・ガバナンス (ESG) の要素を投資判断に組み込む概念が浸透しつつあるほか、パリ協定や持続可能な開発目標 (SDGs) などを背景に、サステナブルファイナンスが進化を遂げている。国際連合のコフィー・アナン事務総長 (当時) の呼びかけで2006年4月に公表された責任投資原則 (PRI) を一つの契機に、ESGの要素を考慮する投資概念が急速に広まった。そして、SDGsが国連サミットで採択された15年9月、日本において、世界最大の公的年金である年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) がPRIに署名

した。その頃から、日本の金融市場でも、株式、債券ともに、発行体や投資家などによるESG / SDGsへの意識が顕著に高まっている。

一方、持続可能な社会を実現するためのファイナンスを意味するサステナブルファイナンスは、欧州委員会が18年3月にサステナブルファイナンスの確立を目指し、アクションプランを策定したこともあり、欧州の動きが活発である。

ESG / SDGsに関する債券は、日本証券業協会によりSDGs債と名付けられている (注1)。SDGs債のうち、原則・ガイドラインが金融市場で浸透しているのは19年11月末現在、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドの3種



江夏 あかね (えなつ あかね)

野村資本市場研究所 野村サステナビリティ研究センター長 兼 研究部主任研究員。オックスフォード大学経営大学院修了、経済学博士 (埼玉大学)。ゴールドマンサックス証券、日興シティグループ証券などを経て、2012年より現職。政府、地方公共団体等の委員を歴任。主な著書に『地方債投資ハンドブック』(単著、財経詳報社、2007年)、『サステナブルファイナンスの時代—ESG / SDGsと債券市場』(共著、金融財政事情研究会、2019年) がある。